

# あぱっさ vol.31

アウラ話ど地の精霊

特定非営利活動法人  
熱帯森林保護団体 Rainforest Foundation Japan

〒154-0012 東京都世田谷区駒沢1-8-20  
TEL: 03-5481-1912 FAX: 03-5481-1913  
MAIL xingu@rainforestjp.com HP www.rainforestjp.com

[ご住所等変更ございましたらご連絡いただけますと幸いです]

HOW TO HELP	年会費	大人	5,000円
		18歳以下	3,000円

年会費・寄付金振込先

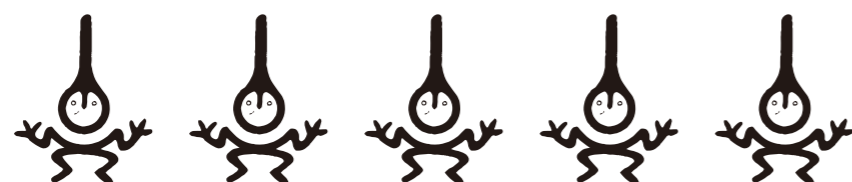
口座名	熱帯森林保護団体
ゆうちょ銀行	郵便振替口座 00140-3-144187
三井住友銀行 東京中央支店	普通口座 7066247

※ 銀行振込の方は、必ずお名前とご連絡先を別途、当団体までご一報をお願い致します。

## ■ これからの世界

当団体RFJを設立して今年で33年目に入ります。目の前に起こった事柄に対応することで精一杯。ただがむしゃらに支援活動を続けてきました。そして去年、突然のコロナ禍。アマゾン支援を通し、絶対このままではいられない!と直感的にはわかっていました。それは毎年猛スピードで、人為的に森が消滅する様を30年以上見てきたからです。地球上の酸素供給源であるアマゾンの森が無くなれば生態系も崩れ、回り回っていずれ己の身にそのツケがくると。まさか世界全体に及ぼすとは想像もしていませんでした。昨年はアマゾン視察が叶いませんでした。そして多分、今年も無理だと思います。幸いなことに現在支援している「消防団事業」と「養蜂事業」はスムーズに進んでいます。現地はコロナ感染も収まりつつあり安堵しています。それにしてもどうしてこんなに人類はアホなのでしょう。既にコロナに向き合い1年以上が過ぎているというのに、何も改善されずまだまだ猛威をふるっています。命と経済を天秤にかけた政策。このままだと貧富の格差が広がりコロナ死亡者より自殺者の方が増えるでしょう。コロナ禍を通し私たちは何を選択するべきかが問われています。溢れんばかりの情報に振り回され、自分の立ち位置すら確認できない烏合の衆にならないためには、何故この星に生まれ、何を残すかを真剣に考える必要があるのではないのでしょうか。本来この星で営むためのルールがあり、それを無視し物質文明が欲に走り、自然の法則を壊し人間本位の便利さを追求した結果が今なのだと思います。コロナウィルスは変異しながら強化し、私たちに時間をくれました。迷路に入ってしまった、その出口を見つけるには、諦めずに個々が人間とは何なのかを今一度、真摯に受け止めるなければいけないと私は思います。

(南 研子)



## ■ 「私はあきらめない」

音楽評論・作詞 湯川 れい子

アマゾンから大酋長ラオーニさんが歌手の스팅グと来日して記者会見をした時、「地球の酸素の70%を供給しているのはアマゾンだ。熱帯森林の消費が続けば、地球は乾燥し、吸う空気も無くなり、薬も作れなくなって、今われわれが感じている恐怖を、あなたも感じるようになる」と言いました。それが1989年。今から32年も前の事です。

そしてマイケル・ジャクソンが「アース・ソング」という歌の中で、同じ環境破壊の恐ろしさを警告したのが1995年。この歌はイギリスでは1位を記録しています。

地球温暖化への警告は、1997年に京都で行われた第3回気候変動枠組条約締約国会議で個々に具体的に議論され、「このまま温暖化がすすめば、陸地の近くで台風が発生するようになり、集中豪雨や強風の被害が大きくなって、地球の乾燥から砂漠化が加速。食糧不足や飲み水の枯渇。さらには害虫の大量発生や、感染症のパンデミックが起こる危険性がある」と言った課題が提示されていました。

更にマイケルが2009年に他界する直前に撮影された映画「This is It」の中では、「あと4年で、地球はもう後戻り出来なくなるから、ひとりひとりが自分の事として行動しなければいけない」という言葉を、遺言のように残しています。その「4年後」は2013年だった訳ですから、もうだいぶ過ぎてしまって、今や世界はコロナ禍にあえいでいるのです。

我々が熱帯森林保護団体の代表、南研子さんが、この団体RFJを作ったのは、最初に東京でラオーニさんと会った89年の5月ですから本当に早かった訳です。さすが「ひょっこりひょうたん島」の美術担当アーティスト。ビビビッ!!と肌と心と魂に響いたのは、研子さんが스팅グやマイケルと同じ感性の持主だったからでしょう。

その日から、今だに恐ろしくてアマゾンには入れない私と違って、ジャングルの樹の上からポタポタと落ちて来るヒルも、爪の間に卵を産むというツツン蠅もモノともせず、32年間に34回もアマゾンの奥地まで通って、熱帯森林と先住民の支援を続けている日本のお母ちゃんは本当に偉い!心から尊敬しています。

研子さんとRFJは決して強力ではないけれど非力でも無い。1人だけれど独りじゃない。なぜならこの活動は、世界の良心と広く繋がっているからです。

私はまだ決してあきらめてはいません。地球はもう元には戻れないかも知れないけれど、それでも少しでも災害を減らし、対立と奪い合いを回避して、せめて子供たちが笑顔で暮らせる明日を夢見て、仲良く生きて行こうではありませんか。

30年向、応援して頂いてます。どんだけお礼にしようか。ふんずには言えない。さびしいから、いいお母さん。人生の師と仰ぐ。同じ道を歩んでいきます。



## ■ たったひとつの約束

NHKディレクター 国分拓

現場に関与しないこと。出来ない約束はしないこと。ヤノミ族の集落に長期間同居することになったとき、二つのルールを自身に課した。「関与」について詳しく述べれば、物々交換以外は何も与えず、何の相談にも乗らず、何が起きようとも関わらない、ということである。つまり、そこにいだけ。傍観者に徹しなければ真のドキュメンタリーは作れないという(ある種傲慢な)信条からくるものなのだが、彼らからすれば、はた迷惑な存在だったに違いない。

そんな私が、百五十日近い同居の中でひとつだけ約束をした。ようやくインタビューを受けてくれた集落の創始者(シャボリ・バタ=偉大なるシャーマンと呼ばれていた長老)がインタビュー後に「私が死んだら、それを燃やしてくれ」と言ったのだ。インタビューが収められたテープだった。私は、分かりました、約束します、と答えた。

十年以上が過ぎた一昨年、支援組織が彼の死をツイッターで伝えた。画面には在りし日の写真が貼りつけられ、「文明」側からの追悼ツイートがいくつも並んでいた。が、画面をスクロールしていくと状況が一変した。ヤノミからの抗議が続く。彼らは一様に、写真を載せたことに憤っていた。ヤノミの世界では、誰が死んでも縁の物はすべて燃やさねばならない。名前すら口にしてはいけない。一切合切を忘却することが死者を送るということなのだ。

はっとして思い出した。あのテープを燃やさねばと思った。カメラマンに連絡をして多摩川の河川敷に燃やしに行こうと言った。ちょうど河原でのバーベキューや花火や夜通しのどんちゃん騒ぎが問題になっている頃だった。至る所に監視カメラがあるから河原はまずい。カメラマンはそう言った。庭で燃やすしかなかった。隣家に確認をすると、近所の雑木林中で中学生がボヤを出して以来、焚火はもちろん、庭での焼却も禁止になったという。もはや、「ゴミ」として出さなければ、「合法的」に焼却できる場所は日本にはないようだった。

時だけが無為に流れ、そうこうしているうちに札幌に異動になった。貯め込んでいたテープやハードディスクは個人情報としてNHKが契約する倉庫に納めねばならなかった。

もう一度あの土地に行って、そこで燃やそう。そう思い込もうとしている自分があるが、それも、コロナが終息しない限り無理だ。未だ果たしていない約束に、身体の芯が疼く。

※国分さんの原稿を連載していきます。

## 「ガリンペイロ」

国分拓 / 著 新潮社 1,870円(税込)

アマゾンインディオドキュメンタリー番組を多く手がけている国分さん。90年代後半、金採掘業者とインディオの争いを収めるために、私はメガロンと地図にもない金採掘場へ行き、町は酒場と売春宿しかなく、昼からピストルがバンバン!場所は違いますが臨場感がひしひしと書籍から伝わり、臭いまで感じヒリヒリします。是非ご購入のほどを!(南)



パラ州の名も無い金採掘場の村  
金採掘人(ガリンペイロ)  
写真:RFJ

## カヤポ族長老メガロンの最後の砦コップレ

20年以上前からメガロンが理想としていた考えが、今現実に着々と進んでいます。カヤポ族の知恵は自然の摂理に合った教えの下、営みに反映され継承されてきました。

ブラジル社会と初接触して1世紀も経っていませんが、その間、文明社会が怒涛の嵐のごとくインディオ社会を飲み込んでいきました。カヤポ族の偉大なる呪術師プレポリは旅立ちの時「お前たちは自分たちで作ったもので滅びるだろう」と文明側に警告しました。カヤポ族の長老ラオーニも世界を回り熱帯林を守る事の大切さを伝えていきます。

紆余曲折し、メガロンが森深きところに新しい拠点を作り始めました。ジャングルを切り開き作物を作り、次世代へ神羅万象を伝え生き延びる術を教えます。いずれ外部の人間もこの地への訪問を視野に入れての考えです。場所の名前はメガロンの父の名前コップレをオマージュとしてつけました。当団体はこのプロジェクトを支援しています。



### 訂正&お詫び\*

あぼっさ30号で熱帯林破壊面積の誤りがあり、訂正いたします。申し訳ありませんでした。

INPE(ブラジル国立宇宙研究所)の  
PRODES(衛星による法定アマゾン森林伐採監視プロジェクト)年次統計

2019年: 10,129.00平方km

2020年: 11,088.00平方km(東京ドーム24万個分)

\*2020年度の会計報告はホームページに記載しています